

saveMLAK プロジェクト

saveMLAK

ニュースレター

2020/07/15 発行

第 64 号

## 年次報告会 2020

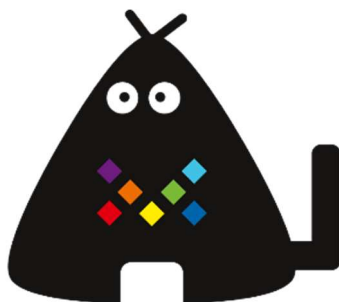
2020 年 6 月 28 日 (日曜日)、14:00~16:30 に年次報告会がオンラインで開催されました。

14:00 から 15:15 に Meetup を行いました。その後 15:30 頃から基調講演、17:00 からオンライン懇親会が行われました。基調講演の概要を報告します。

**基調講演：図書館の動向調査の立ち上げと、ひろがり。－「COVID-19：多くの図書館が閉館しています」**

2020 年 4 月 15 日から 6 月 20 日まで、saveMLAK では 7 回に渡って図書館の動向調査を行いました。その概要について吉本龍司氏、常川真央氏から発表がありました。

吉本氏は株式会社カーリル（以下、カーリル）による第 1 回調査から、saveMLAK にバトタッチする流れを、常川氏は調査の具体的な手法や課題等をお話いただきました。



吉本氏はカーリルとして、4 月 8 日・9 日に図書館の閉館状況調査を行いました。今図書館はどうなっているのか、全体を把握したいと思って始めたそうです。全国の図書館のデータを持っていたことから、市町村コードとカーリルの図書館データベースの情報をかけ合わせ、市町村単位の調査を行いました。24 時間で全都道府県を調べ、その大変さと成果を SNS で発信したところ、定期的な調査をしてはという後押しがあり、saveMLAK のプロジェクト「covid-19-survey」につながって行きました。

調査開始前にプレスト会議・データ編集会議を経て、4 月 15 日から第 2 回の調査がスタートしました。saveMLAK の調査では、吉本氏は凡例の作成とデータのクレンジングを中心に担当されていました。「決めないことを決める」というスタンスで、わからないことがあったら相談して決めようというスタイルで進めたといいます。

常川氏は調査シートの分割・統合や、プレスリリースの Wiki 作成などを中心に調査に関わられました。第 8 回まで調査 238 名の有志が参加し、1 万超の公共図書館を調査しているそうです。

1 回の調査を 2~3 日と短期間で実施し、結果を出しているのは、ICT ツールの活用による工夫だといいます。Google スプレッドシートによる共同編集、調査者間のコミュニケーションに slack と Zoom を活用したこと、集計も自動で行えるよう常川氏がプログラムを書かれました。特徴的なのはウェブアーカイブによるスナップショットを取ったことで、目視の調査のエビデンスとしてだれでも確認できるようになります。



※saveMLAK ニュースレターはクリエイティブ・コモンズライセンスにより提供、配布しています。複写・配布等、自由にしていただいて構いません

このような調査方法は、これまでの saveMLAK の Wiki に情報を集約するスタイル(ドキュメント志向)とは違って、テーブル志向であると言えます。テーブル志向は休館率といった数値的な把握には便利です。ただし、テーブル志向は情報の取りこぼしが出てくるため、両方を相補に活用するとよいのではないかと思います。

このように図書館全体を調査するにはどこに図書館があるかという基礎データが重要であるといえます。今回、基礎データはカーリルが提供してくれましたが、今後も災害調査をするうえで、基礎データを持っているかどうかは調査の精度にも関わってきます。

今回は目視での調査でしたので、インターネット・アーカイブにウェブページを保存することが調査のエビデンスとなり、また振り返りも可能にしてくれます。しかし、このアーカイブを取ることが難しい図書館のウェブサイトも散見されました。そもそも海外からのアクセスを許可しない(インターネット・アーカイブは海外のサービス)図書館や、お知らせのページの URL が都度変わってしまい、保存しても最新のページしか表示されない図書館などがありました。この課題を解決するには、アーカイブ可能なパーマリンクのウェブサイトを図書館が整備してくれるよう提言していく必要があるといえます。

常川氏は、今回のこの量的調査の手法を整理してツールキットにまとめることで、COVID-19に限らず、ほかの災害の時にも役立つのではないかと思います。

意見交換の時間には、今回の調査に役立ったインターネット・アーカイブに利用者がウェブページを保存できる機能は、3.11 以後に必要性を認識した人たちの情報交換によって実装されたという情報ももたらされました。

また、基礎データの収集については、日本図書館協会や専門図書館協議会といった、基礎データを収集している機関から、災害調査に必要なデータの提供を受けられるよう、saveMLAK と協定を結ぶという方法もありうるのではという提案もありました。

なお、この図書館動向調査のデータはすべて CC-0 で公表されています。調査結果を活用していただければ幸いです。

(報告作成：子安伸枝)

## 調査報告：COVID-19 による図書館の影響

### ならびに動向調査

今年に入り COVID-19 の感染拡大によって、多くの図書館が休館した。そこで、saveMLAK のプロジェクトとして、COVID19-survey が発足し、全国の公共図書館の開閉館状況の調査を行った。調査は定期的に行われ、これまで7回にわたり saveMLAK Wiki 上でプレスリリースを発行し、併せて調査データを CC-0 で公開した。詳細は以下プロジェクトウェブページをご参照いただきたい。

covid-19-survey

<https://savemlak.jp/wiki/covid-19-survey>



これまでの調査結果として、プレスリリース発行時点の全国における公共図書館の休館率の推移を図 1 に示す。現時点で最も休館率が高かったのは、5月7日(木)プレスリリース発行時点であり、92.0%にのぼった。その後、徐々に開館する図書館が増え、最新のプレスリリースである6月22日時点では休館率が1.6%となり、ほぼすべての公共図書館が再開している状況であった。

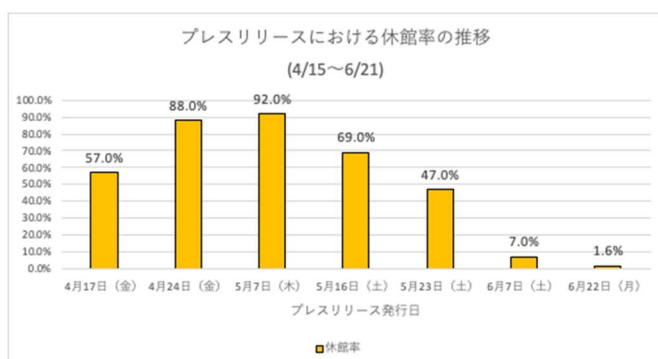


図 1. 公共図書館の休館率の推移 (プレスリリース掲載日別)

本調査では休館中や再開後の図書館の取り組みの特徴についても調査を行った。そのなかで、ドライブスルー形式の圖書の貸し出しや、リモートでのレファレンス相談など、様々な創意工夫が行われていることがわかった。

また、入館者記録をとっている公共図書館の館数の推移についても調べた。5月14日調査時点(5/16 プレスリリース発行)では32館(開館数に対する割合:6.0%)、5月21日調査時点(5/23 発行)では93館(10.1%)、6月6日調査時点(6/7 発行)では289館(18%)、6月20日調査時点(6/22 発行)では345館(20.4%)の図書館が入館記録をとっていた。

以上、執筆時点までの調査結果に基づいて COVID-19 による全国の公共図書館の影響について簡単に報告した。執筆時点では全国の公共図書館はほぼ再開している状況にあるが、COVID-19 は依然として完全には収束しておらず、また東京都など一部地域では再び新規感染者数が増加するなどの兆しが見えている。今後も継続的に調査を続けていきたい。

(報告作成：常川真央)

## saveMLAK 第 9 期 2019 年度決算報告

6月27日、2019年度決算を監査した結果、報告書のとおり間違いはないと確認されました。以下、一部を整理して掲載します。決算報告書原本は saveMLAK のサイトで公開します。【ファンド係】

### 活動計算書(損益計算書)

2019年4月1日～2020年3月31日(単位:円)

I 経常収益	
1. 受取寄付金	11,073
2. 事業収益(グッズ売上)	15,088
3. その他収益(受取利息)	5



経常収益計	26,166
II 経常費用	
1. 事業費	
通信費	38,838
広報費	21,000
支払手数料	440
事業費 計	60,278
2. 管理費	
管理費 計	0
経常費用計	0
当期正味財産増減額	-34,112
前期繰越正味財産額	713,867
次期繰越正味財産額	679,755

貸借対照表 2020年3月31日現在  
(単位:円)

I 資産の部	
資産合計(現金・預金)	679,755

II 負債の部	0
III 正味財産の部	
前期繰越正味財産額	679,755
当期正味財産増減額	
正味財産合計	679,755
負債・正味財産合計	679,755

saveMLAK 会計 2020年5月~2020  
年6月期(合算) 会計報告

収入	
寄付金(前回報告の寄付 預かり金 1,002円含む)	2,663
支出	
振替受入明細票再発行 費用	663
2020年6月末現在残高	683,144

【糸野泰輔 / saveMLAK ファンド係】



## 2020 年 5 月～ 6 月の出来事と今

### 後の予定

- 4 月 12 日  
COVID-19 対応特別 saveMLAK Meetup  
を開催
- 4 月 23 日  
第 109 回 Meetup を開催
- 5 月 21 日  
第 110 回 Meetup を開催
- 6 月 28 日  
年次報告会兼第 111 回 Meetup 開催
- 7 月 30 日  
第 112 回 Meetup 開催予定



### 編集後記

新しい生活様式になってこの現状をどう生きるか、感染者数によって社会がどう変わるか日々の暮らしがコロナ前と比べて変化を求められています。MLAK 機関もコロナとどう向き合えばいいのか模索しながらの対応になっています。COVID-19 の調査では新たな取り組みを行っている施設を紹介していますので、参考になればと思います。

【富澤 美典：編集担当】

## 令和 2 年豪雨の情報提供について

COVID-19 調査のみならず、九州地方中心に全国的に襲った大雨の被害状況も随時更新しています。このニュースレターを作成している間にも、大雨による土砂崩れや洪水などの被害が出ている地域があります。saveMLAK ではわかり次第、情報の追加修正などを行っております。

身の安全を最優先しつつ、もし豪雨による被害がありましたら saveMLAK 宛にお寄せください。

編集発行：saveMLAK プロジェクト

発行日：2020 年 7 月 10 日（金）（第 63 号）

発行所：神奈川県横浜市中区相生町 3-61 泰生ビル  
さくら WORKS<関内>407 アカデミック・  
リソース・ガイド株式会社内 saveMLAK プ  
ロジェクト

E-mail：[pr@savemlak.jp](mailto:pr@savemlak.jp)

URL：<https://savemlak.jp/>

